

京都教育大学附属桃山中学校

(様式4-2 : 2019年度 モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)にかかわる学校支援制度

実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称 : エリアプライシングにみる観光業と環境維持の両立についての調査					
2. テーマ : 観光業と交通の両立をしている国々の調査					
3. 実施教科 : 中学校 社会科					
4. 関連単元 : 地理的分野 世界のさまざまな地域の調査					
5. 実施単元数 : 6時間構成					
6. 学年	第1学年	7. クラス数	4クラス	8. 生徒数	135人
9. 実施内容 新型コロナウイルス感染症防止による休校により未実施					

10. 学習のながれ： 学習計画書参照

※学習で使った教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

社会科学学習指導計画

授業者：三間 英孝

1. 日時 2020年 3月 日 () 校時
2. 学級 1年 4クラス 計135名
3. 単元名 地理的分野 世界のさまざまな地域の調査 (全6時間)
4. 単元の概要

単元の目標：世界の地理学習のまとめとしての調査活動を行い、文献資料やインターネット、実地調査などで情報を収集し、分析・整理してまとめ、地理的認識を深めることができる。

	各自の題材名	学習内容
1	調査のテーマを決めよう 【課題把握】	・ロードプライシング制度の概要を知り、導入の是非を考える。
2	調査をすすめよう 【課題追及】	・ロードプライシング制度の導入に関して、どのような情報が必要かを考える。
3	調査をすすめよう 【課題追及】	・フィールドワークに出かけ、仮説を検証するための情報を集める。
4	調査結果をまとめよう 【課題追及】	・フィールドワークや文献で得られた情報と、仮説を検証し、考察する。
5	問いに対する自分の答えをまとめよう 【課題解決】	・グループでの交流を踏まえ、京都市におけるロードプライシング制度の是非に対する自分の結論を出す。
6	ロードプライシングの観点から未来の観光業を予想しよう 【課題解決】	・他の人の意見を聞き、自らの意見を補強する。

5. 単元の教材観

本単元は、中学校学習指導要領社会編の地理的分野「世界のさまざまな地域の調査」の単元に拠る。本単元は、「世界の様々な地域または国」を1地域選定し、「適切な主題を設けて問題解決的な調査活動や探究的な活動を行う」単元である。

本単元では、「世界の地域構成」「世界各地の人々の生活と環境」「世界の諸地域」の各単元の学習で身につけた知識や概念、技能を活用して、世界の地理学習のまとめとしての調査活動を行い、世界の地理的認識を深めるとともに、世界の様々な地域または国の調査を行う際の視点や調べ方、まとめ方などの方法を身につけさせることを主なねらいとしている。

地域の選定にあたっては、「地域または国」とあるように、学習指導要領上は、必ずしも国単位での選定のみを想定しているわけではない。よって、「観光業と交通の両立をしている国々」をテーマとして取り上げた。その理由は以下の通りである。

まず、自然環境、産業（農業・工業・観光業）、生活・文化、環境問題、政治など、地理的事象が多様で調査内容に広がりがあり、また、資料も集めやすいこと。

そして、京都市がロードプライシングの導入を検討しており、自分事として物事を捉えやすく、グローバルな視点をもった調査が期待できること。

最後に、文献資料やインターネットだけでなく、実地調査が可能であり、より思考力・判断力・表現力を育む機会となると期待できること。

このように、「観光業と交通の両立をしている国々」から、世界の様々な地域の地域的特色を捉え、課題解決的な調査活動や探究活動を行う。

6. 単元の生徒観

本学級の生徒は、社会科の授業において地理よりも歴史が好きと答える生徒が7割を占め、地理的な学習を苦手と感じている生徒が多い。しかし、これまでの地理の学習の中で、地図の活用の仕方やグラフ等の資料の読み方を学習し、地理への苦手意識が少しずつなくなっているように感じられる。

生徒は、これまでに世界各地の環境について大観する中で、人々の生活の変化から社会の変容を読み取る力を培ってきた。また、その変化の原因を模索し、課題があれば持続可能な開発の視点に基づき、解決策を探る学習を行っている。現時点においては、知識の羅列であつたり根拠に乏しかったりする考えにとどまっている生徒が散見されるため、様々な資料から考察できるようにしたい。そのために、地域的な課題を世界の遠い国の出来事として終わらせるのではなく、自分事として捉えることが重要である。

7. 単元の指導観

本単元で扱う題材である、ロードプライシング制度とは、観光公害対策の手段として、特定地域や道路を通行する車輛から料金を徴収することによって、交通渋滞の激しい地域やその周辺の自動車交通量を抑制し、交通渋滞や大気汚染といった社会的課題や環境問題を改善するための制度であり、鎌倉市や京都市等において導入のための調査・検討がなされている。

この制度を単元学習の中核に据えたねらいとして、以下の点が挙げられる。まず、制度導入の是非を検討するといった考察にとどまることなく、自分自身の暮らす地域をよりよくしていくために判断していく構想が期待でき、「公民的資質」を育てることができること。次に、経済成長と環境問題という対立構造が明確であり、持続可能な社会の実現のためにどのような選択をするべきかという、思考力・判断力が求められること。最後に、観光資源をもつ地域の特色を捉え、その共通点から汎用的知識を身につけることが可能であること。

これらのねらいを踏まえ、生徒の理解の実態に応じた指導を行う。指導に一貫性を持たせるためにも、生徒の学びをポートフォリオで蓄積し、生徒の変容を把握していく。

8. モビリティ・マネジメント教育との関連

モビリティ・マネジメント教育のねらいは、『モビリティ・マネジメント教育のすすめ』によると、「モビリティ・マネジメント力の育成」とある。さらに、モビリティ・マネジメント力とは、「交通に関する知識を習得・活用しながら、個人にも社会、環境にもやさしい在り方を探究し、望ましい交通社会の実現に向けて自発的に働きかける能力」とされている。筑波大学附属小学校教諭である梅沢真一氏によると、モビリティ・マネジメント教育は「知識、能力、態度の三つの要素から『よりよい社会の形成に主体的に参画する能力』を育むこと」との記述がある。

また、梅沢氏は、「モビリティ・マネジメント教育の目標は、中学校社会科の目指す目標である『公民的資質の育成』と大差はない」としている。このように、社会科の授業の中で、モビリティ・マネジメント教育を実践することは難しいものではない。

本単元は、世界各地のロードプライシング制度の導入例や市街地への自動車の侵入制限（パークアンドライド制度）の例をもとにして、観光地への自動車の流入の実態とそれが引き起こす環境問題について思いを巡らせる。自動車は便利なものであるが、CO²の排出や渋滞といった問題も同時に発生するということを、マドリッド市を中心とした映像資料を活用して生徒に伝える。さらに、身近な地域である京都市の中心地である四条通りの画像を活用することで自分事として捉えることができるようにする。そして、京都市にロードプライシング制度導入によって、観光都市の側面をもつ京都市がどのような変容を遂げると予想することができるか、また、京都市民や観光客、地元の商店で働く人たちはどのように京都市について考えているかを、生徒たちは予想し、仮説をたて、検証していく。多面的・多角的な思考力を育てるためにも、現地調査を行い、観光と環境問題についてさまざまな立場の人の価値観に触れ、少人数のグループにおいてもその価値を共有することができるような工夫をする。そうすることで、社会科の目標である「公民的資質の育成」

を目指すことができると考える。また、それはモビリティ・マネジメント教育にも繋がっている。

9. 単元の流れと構成項目

時数	学習内容・学習活動	モビリティ・マネジメント教育との関連
1	<p>「調査のテーマを決めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元目標 <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して追求すべき課題を知る。 ○観光業と環境問題について <ul style="list-style-type: none"> ・映像資料から、観光地の課題をつかむ。 ・観光地の課題を解決するための方法を考える。 ○ロードプライシング制度について <ul style="list-style-type: none"> ・ロードプライシング制度について知る。 ・ロードプライシング制度導入の背景を考える。 ・ロードプライシング制度の導入の是非について考え、仮説をたてる。 	<p>観光業と交通渋滞などの環境問題の解消の両立という課題をどのように解決すればよいか、解決策の仮説を立てる。</p>
2	<p>「調査をすすめよう①」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調査方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・文献やインターネットを活用して、ロードプライシング制度の特徴を自分なりに把握する。 ・インターネットではわからない生の声が調査に必要であると理解する。 ・フィールドワークの計画をたてる ・どういう立場の人に質問するのか、どんな場所で質問するかを、仮説をもとに課題に対する効果的・効率的な情報収集の方法を考える。 	<p>ロードプライシング制度の特徴から、どのような立場の人に質問をするか、どんな場所で質問するかのフィールドワーク計画を立てる。</p>
3	<p>「調査をすすめよう②」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークで得られた情報を、立場や場所ごとに記録する。 ・検証した現場の写真を撮り、実態を把握した上で情報をまとめる。 ・自分の意見や疑問点をワークシートにまとめる。 	<p>京都市民や観光客、地元の商店で働く人たちはどのようにロードプライシング制度の導入について考えているかを予想し、検証する。</p>
4	<p>「調査結果をまとめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調査結果のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・調査でわかったことを視覚化し、グループメンバーに説明できるようにする。 ○整理・分析した情報をグループで共有 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの情報を報告しあい、新たな情報を得る。 ○仮説の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・得られた情報をもとに、調査前の仮説を検証し、考察する。 ○新たな意見を導き出す <ul style="list-style-type: none"> ・仮説が覆ったり、間違っていたりした場合、新たな考えを練り上げる。 	<p>京都市民や観光客、地元の商店で働く人たちはどのようにロードプライシング制度の導入について考えているかを予想し、検証し、導入についての新たな意見を構築する。</p>

<p>5</p>	<p>「問いに対する自分の答えをまとめよう」</p> <p>○導入の是非について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えや立場が同じ人や違う人と意見交流し、互いの考えを比較する。 ・議論を経て、ロードプライシング制度導入の是非について自分の考えをまとめる。 	<p>ロードプライシング制度の導入の是非について、様々な立場を考慮して結論を出す。</p>
<p>6</p>	<p>「ロードプライシングの観点から未来の観光業を予想しよう」</p> <p>○単元において追求すべき課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光業と環境問題の解決の両立について、自分の考えをまとめる。 ・グループでまとめを交流し、自分の考えの足りない部分を補強する。 <p>○今後の学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の課題を考え、それを解決し、社会参画の意識をもつ。 	<p>観光業と自動車の関係性を明確にした未来予想を行う。</p>